

市民俳歌柳壇

俳壇 星田一草 選

マネキンの白のボトムス春淡し ● さつき3丁目 伊藤 幸子
 ◎選評 今年の春のファッション。マネキンの着ける白の明るさが目を引いた。「春淡し」の措辞にこれから街に流れるいろいろなファッションを楽しむにしている様子がうかがえる。明日への期待が感じられてうれし。

雪降るや夫の拵掛け撫づりけり
 針ヶ谷1丁目 橋本 登志子

大根引く勢いあまり空仰ぐ
 江曾島2丁目 坂本 節子

はんなりと朋の作りし紙雛
 上田町 村上 恒子

大雪崩ホバリングするへり一機
 野沢町 渡辺 明広

歌壇 安野登美子 選

新しき令和の未来思ひつつ
 古き昔の音盤廻す

◎選評 令和新時代の音楽鑑賞は、カセット、スマートフォン、CDにより音盤の必要のない時代の到来。「音盤廻す」の結句に、音盤の溝に針を落とすと曲が流れる。こんな状況を想起する。「古き昔」の曲に懐古、温かみを、しみじみ味わう作者。新しき時代、古き良き時代への対比を彷彿とさせ、温みあるメロディーが聞こえるような一首となった。

ほうれん草茹で上げ切ればまな板上に
 冬の畑の緑を残す
 野沢町 鈴木 孝男

ひもすがら黙してすこす冬日和
 ローバイの葉がそよと囁く
 戸祭2丁目 須藤 テル子

窓越しに入る冬日にシクラメン
 冬枯れ色の部屋をつるほす
 不動前4丁目 阿久津 多美子

庭隅の陽だまりに咲く福寿草
 いずこより来しか蜂の群がる
 細谷町 平野 フミ子

柳壇 荒井宗明 選

ここだけの話広がるゴミ置場

◎選評 ごみの収集が始められたのは昭和45年頃というから、かれこれ50年ということになる。振り返ってみると、当時のごみ置き場は、主婦たちの情報交換となつて大にぎわいで、主婦は、ごみ袋一つでは足りなかつたという。それから50年。ごみ置き場は至極静かで、主婦の立ち話も見掛けなくなつた。原因の程は不明である。

瓶の蓋男の力見くびられ
 若草3丁目 佐藤 隆久

子の寝言聞きつつ布団掛け直す
 清原台6丁目 篠原 富子

タイヤ取り替えて明日の雪を待つ
 平松本町 飯島 敏夫

布団干して今宵の夢を暖める
 中岡本町 中沢 智子

◎俳歌柳壇 応募方法 1人各3句(一首)以内。対象は市内在住の人で、未発表作品。はがきに、作品(漢字にはふりがなも)・住所・氏名・ふりがな・応募する壇名を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課 ☎(632)20228へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。

市民俳歌柳壇 令和3年度年間賞

令和3年4月号〜令和4年3月号の「市民俳歌柳壇」コーナーに掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました(敬称略)。
 入賞者には、後日、記念品をお送りします。

☎広報広聴課 ☎(632)20228

俳壇 星田一草 選

準大賞 大賞
 ヘルパーさんきんぴら下げて春の雨
 岡本町 小川 祐次

想い出に出会う路傍の吾亦紅
 弥生1丁目 大河原 信昭

立冬やケトルの湯気の威勢よく
 江曾島本町 中村 元吉

歌壇 安野登美子 選

準大賞 大賞
 てのひらに触れてみたしも新緑に
 ふつくら連なる山の稜線
 清原台5丁目 北市 邦子

寒椿みぞれ交じりに紅の見え隠れして大寒に入る
 大曾5丁目 岩淵 照美子

白き花一輪咲きし沙羅双樹一日の命透きて美し
 下栗町 大塚 榮子

針供養豆腐に罪はなかりけり
 平松本町 川野 和美

ふるさとの感触を踏む霜柱
 中岡本町 竹内 竹ノ花

Gパンや姑もウエストありはあり
 鶴田町 鈴木 芙美子

柳壇 荒井宗明 選

準大賞

大賞

ふるさとの感触を踏む霜柱
 中岡本町 竹内 竹ノ花

Gパンや姑もウエストありはあり
 鶴田町 鈴木 芙美子